



高陵山 光明寺寺報 第6号

平成30年10月1日発行

発行 石狩市八幡町高岡16-2 光明寺内

光明寺ホームページ

石狩 光明寺



余りの夕焼けの見事さに撮影した秋のお彼岸頃の夕景です。今年程自然災害の多い年も見当たりません。西日本に被害が集中した豪雨による土砂災害では227名が亡くなり今だ10名が行方不明となり、本道では初めて震度7を記録した胆振東部地震では犠牲者は42名を数え、今後も毎年どこかで自然災害が発生し犠牲者が出るのが予想されます。「会うは別れの始まり…」人と人との出会いは尊い縁によるものですが、その縁も永遠に続くことは有り得ず出会いの時から別れは始まっているのです。被災された方々は被災する直前までは日常を生きていました。遺族となられた方が言っていました。「こんなことになるならもっと会っておけばよかった」と。難しいことではありますが一つ一つの縁を大事にしなければ、と改めて思われます。私達が生きる此の岸＝此岸(しがん)で阿弥陀様のお念仏の導きに出遭い、写真のように真っ赤に燃える太陽が沈む西の彼方に極楽浄土＝彼岸を想う、即ち迷いの此岸から極楽の彼岸に生まれることを願う仏事がお彼岸です。理不尽にも災害等により此岸から彼岸へ往かれた沢山の命を偲び、他人事では済まされない、己の身にもいつ降りかかるか分からない悲劇をしっかりと見つめましょう。地震当夜の真っ暗で静けさの中で見た見事なまでの満天の星が強く印象に残りました。この星空が被災地にも降り注いでいるかと思うと、恐ろしいよりなんだか悲しくなりました。何故、自然はこんな厳しい試練を与えるのでしょうか。

台風 21 号と胆振東部地震

今年の国内は台風の当たり年で逆走台風というのもありました。表紙にも書きましたが、台風 7 号と梅雨前線等の影響による西日本集中豪雨では洪水や土砂災害などにより 227 名が亡くなり今だ 10 名が行方不明、負傷者は 421 人を数え住宅



の全半壊は 16000 棟を超えました。続いては災害級の猛暑に又豪雨。道内に目を移しては雪解けが早かったと思えば 6~7 月にかけ低温、空知や上川地方では豪雨により河川氾濫、7 月下旬は猛暑、8 月に入り冷夏ともいえる涼しさから後半は雨、と目まぐるしく変遷しました。その中、記憶に新しい台風 21 号直撃に大地震と、まさかほぼ同時に見舞われるとは思いませんでした。光明寺では台風で境内の 2 本のアカシア?の木が根こそぎ車道へ倒れましたが、不幸中の幸いで通行車両等への被害は

無かったようです。総代長とご門徒のお二人で約 4 時間、チェーンソーで裁断作業を行って下さいました。薪にも椅子にも使えますのでご覧になりたい方は本堂横へどうぞ。この地域では幸いにも人的被害は無いようでしたが、近所では屋根のトタンの剥がれは多数に上り、D 型倉庫は潰され、車庫やシャッターやビニールハウスのビニールは吹き飛ばすという惨状でした。高岡では 5 日の早朝から午後 3 時頃迄の約 12 時間の停電、復旧してから 12 時間後の平成 30 年 9 月 6 日午前 3 時 8 分、厚真町直下を震源とする地震が襲いました。震源地の震度は本道初の「7」、石狩も「5 弱」と、今まで経験したことの無い揺れでした。皆様のお住まいは御無事でしょうか。その日のその時間、自宅で寝ていたところ揺れが早い

か飛び起きました。当寺は胆振地方のお寺とは前住職のころから縁があり、昔を知る方は厚真の阿部さんや安平の齊藤さんと聞けば懐かしい方もいるでしょう。9 月 26 日に坊守と被災見舞いと現地の確認に伺ってきました。右写真にあるように震源の阿部さんのお寺の真正寺様は

本堂が倒壊の危険があり本堂内立ち入り禁止、写真でもわかる通り束石から柱が辛うじて一部引っかかっている状態で建物自体が完全に右へ傾いています。隣町の齊藤さんのお寺の浄願寺様は右の写真で分かる通り本堂内陣の阿弥陀様のお家の「宮殿」が倒れ御本尊が損壊、納骨堂は仏具が散乱し建物の外壁には亀裂が走るといった状態のようです。他寺院でも門柱や鐘楼堂(鐘撞き堂)倒壊、新築間もない庫裏が損壊等々想像を絶する状況

平成 30 年 7 月 12 日(木) 北海道新聞 号外

豪雨死者 200 人



西日本 700 人なお避難



でした。ただ、ご住職始め寺族の皆様は怪我等なかったようでしたが、思い通りにならないさだめを背負っていることを再認識



↑ ↓ 安平町浄願寺様
本堂宮殿倒壊
納骨壇倒壊 仏具散乱

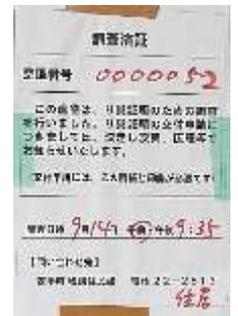
するしかありません。安平町早来の実成寺様では、本堂内立ち入り禁止の措置が取られましたが、彼岸も重なったことで急遽境内にプレハブを設置し仮設の納骨堂を開設、多数のお骨の移動は立ち入りが危険な本堂からご寺族の方で行いお参りの方を受け入れたそうです。ご住職と坊守様が、まだまだ体を感じる余震があるので揺れを感じたら即刻逃げて下さいと注意の下本堂内部を案内して下さいま



↑ 安平町早来
実成寺様 本堂全損
↓ 仮納骨堂



した。複数の建築業者の見識では被災した現本堂の修復費用は新築に匹敵する、という判断だったそうです。本堂は徐々に傾きつつあり罹災が認定されたら来年以降に解体になるだろうということでしたが、救われたのは深刻な状況の中、ご住職ご夫妻が思いのほか明るかったことです。その後、鷗川町まで足を延ばしましたが、震源地付近では最も被災の度合いが高く一般住宅の倒壊があちらこちらにみ



られ、復興の工事車両やパトカーが走り回る様子に思わず数年前に行った東日本大震災の現場のことが蘇ってきました。本震当日、高岡は水が止まることはありませんでしたが、揺れて間もなく長い停電に突入しました。今更ではありますが、東日本大震災や熊本地震などの報道は見ているもやはり遠くの人ご



↑ むかわ町法城寺様
鐘楼堂（鐘撞堂）倒壊
↓ 境内墓石倒壊

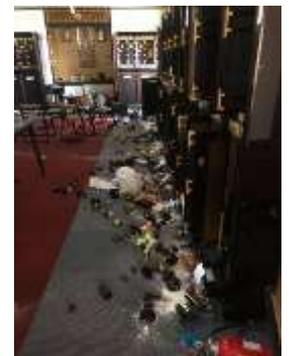
とだったのでしょ。急いで買い出しやガソリンスタンドへ駆け込むもいずれも行列を成し、被災地の様子を伝えているであろうテレビは点かず、停電を忘れてスイッチを押し落胆、暗い夜の訪れに怯え、明るい朝に喜びを覚え、翻弄の一因は自分の認識不足もありますが、我が家では夜の明かりにガスランタンの薄明るい中、久々に息子とトランプで遊ん



↑ ↓ 追分町安立寺様
納骨堂仏具散乱 他



だことが思い出に残りました。停電から 44 時間後に復旧したときは思わず息子と「点いた！」と叫び、電気のない生活を振り返りつくづく行き当たりばったりの自分と、人知の限界を悟る機会となりました。今回の台風と地震により当寺のご法中の新篠津村、浄楽寺様の報恩講が二日目は急遽中止になり望来の本覚寺様と穂別の真光寺様のご法中をよばず、独自での報恩講となりました。日常の尊さを噛み締め、報恩講のご縁を迎えたいと思います。今後、被災地支援に皆様には御協力を仰ぐことが有ろうかと存じますが、伏してお願いを申し上げます。



より当寺のご法中の新篠津村、浄楽寺様の報恩講が二日目は急遽中止になり望来の本覚寺様と穂別の真光寺様のご法中をよばず、独自での報恩講となりました。日常の尊さを噛み締め、報恩講のご縁を迎えたいと思います。今後、被災地支援に皆様には御協力を仰ぐことが有ろうかと存じますが、伏してお願いを申し上げます。

報恩講へのお誘い



10月22、23日、本年度の宗祖親鸞聖人報恩講を行います。お寺に足が遠い方へお寺参りにお誘いすると、「まだ、寺参りには歳が早いから…」「なかなか仕事が…」という答えが多いようです。世間では寺参りにふさわしい年齢、というものがあるようですが、それは一体何歳を指すのでしょうか。「歳が早い…」ということは、ふさわしい年齢になるまで生きている確信があるのでしょうか。本誌の表紙にも書いたように今年ほど自然災害の多い年は見当たりません。

9月6日に発生した胆振東部地震により最年少は16歳の少女が突如として犠牲となりました。将来に向け色々な青写真を描いていたでしょう。皆さんはこの現実直面し「まだ早い…」と言えますか？あてにならない命を生きているのが私達です。自分の死後、命は何処へ行くのか、無になるのか、それとも彷徨い続けるのか、亡きご先祖の命は？命の行く先を聞かせて戴くのが「報恩講」です。今年は増毛町より西暁寺のご住職、藤順生師（写真）を布教使にお迎え致します。大勢のお寺さんも御多忙の中をお集まり下さいます。総代、役員の皆様が準備に準備を重ね皆様のお越しをお待ちしています。当日、特に用事がなくテレビでも見て過ごす方は是非お寺へお越し下さい。別紙ご案内の通り22日夜にはウクレレコンサートもあります。余興の景品も待っています。住職は皆様を待っています。

札幌組壮年の集いを開催しました

札幌組内寺院で仏教壮年会は現在 9 団体有り、年に一度、会場を各寺院持ち回りとし研鑽と親睦を深めることを目的とした「札幌組壮年の集い」が、7月1日に開催されました。今回は7年ぶりに光明寺を会場とし、札幌組内よりご寺院、各寺の仏教壮年会会員等合わせて 60 名ほどの参加を戴き盛会に開催されました。研修会の法話は光明寺の住職が務め、高岡の入植当寺の苦勞の話から現在の産業の特色や光明寺の成り立ち、光明寺仏教壮年会の活動紹介を含め信仰の大切さについてお話をさせて頂きました。壮年会は婦人会に比べまだ結成団体が少なく、そのなかにおいて今年、札幌市豊平区の福住寺様が新たに結成され、発会のきっかけと発会式の経緯を福住寺仏教壮年会よりご報告を賜りました。現在はあらゆることが合理化、縮小化が進む



北海道教区壮年連盟理事
光明寺の越後浩義氏の挨拶



調声（導師）を務める光明寺
竹永英吉壮年会会長

時代において新たに作り上げることがとても価値のあることと思います。研修会後は市内の鮭鱒料理の老舗割烹、金大亭に移動し懇親会を開催、大変ご好評を戴けたようでした。

高岡馬頭講 追悼法要

都市部に在住の方には「馬頭さん」という言葉は馴染みがないかもしれません。入植当時は一面鬱蒼とした雑木林だった北海道へ開拓に入り、耕作地にする為一本一本木を切り倒し、その木を運ぶのに馬の力を借り、ようやく畑が出来ると耕すのにも馬の力を借り、当時の農作業は馬がないことは考えられない時代だったのでしょう。その馬が伝染病と思われる病気で多数が死んだと聞きました。又、力尽き命尽きた馬もいたことでしょう。現在、高岡地区には3か所の馬頭観音の碑が建立され講員によって護持されています。7月7日は中央馬頭観音講（高岡神社前）、五万坪地区は雨天で1日遅れ16日に、地藏沢地区は20日に各地区の講員の皆様と追悼法要を行いました。7月とは思えない寒い日もあれば、一方で20日はまあまあ暑い中のお参りでした。しかし、講員も年々高齢化が進むと同時に農耕馬の恩恵を知らない機械化の世代に移り、追悼碑の維持や法要の実施にご苦労が増しているようです。現代農業も苦労が尽きないこととは思いますが、それでも先人の苦労があったからこそ今の私たちの苦労もあるが、幸せもあることと思います。馬頭講にお参りする度、継続の有難さと難しさを感じますが、出来るならば、いつまでも続けて戴きたい田舎の文化の一つではないかと思えます。

地藏沢記念碑には次の通り書かれています。

馬頭観世音 昔、地域で数多くの農耕馬が飼育されており田畑を耕したり運搬などに使われ、今日の高岡の農業の基盤を築くため大きく役立った。その愛馬たちが怪我や病気で亡くなった時所有地の片隅に埋め、塚などを立て吊っていたが、最寄の数人が適当な場所を求め碑をたて、毎年七月二十日「馬頭さん」と言い皆でお参りしている。

地藏菩薩 開拓当初の頃、行きずりの人が倒れたり、又農作業中に熊に襲われたり、事故にあって亡くなった方のために墓標を建てた。明治の後期（一九一〇頃）地元の女性の葬儀の際、地藏沢川にかかる丸太の橋を渡っているときに足元がぐらつき柩を落とす粗相をしてしまった。それらの霊を慰めるためにこのお地藏様を建立した。



中央地区・写真は昨年のです。昨年はうだるような暑さでしたが、今年は震えるほど寒い日でした。



五万坪地区・参拝が一番多く、特に今年は末就学の子や八幡の駐在さんもお参りました。



地藏沢地区・少人数ながら講員の皆さんの結束を感じます。カメラの設定を間違え血色悪く寒そうに見えますが、暑い日で皆さんお元気なようでした

光明寺仏教婦人会結成 30 周年

光明寺仏教婦人会がこの度結成 30 周年を迎え、本年 3 月 29 日、記念式典物故会員追悼法要及び記念祝賀会が、寺族、総代、仏教壮年会など多くのご来賓の臨席の下盛大に開催されました。お寺の運営は婦人会抜きには考えられません。報恩講の協力始め、境内の花壇植栽などの美化活動、各研修会への参加等々お寺と密接な繋がりを築き住職としても大変頼りになる存在です。特に報恩講は三つの当番制を敷いていますが、御門徒の高齢化などにより立ち行かないことがあり、どうしても婦人会に頼らざるを得ません。聞法に励みたいところを裏方に御尽力を賜っています。又、この度の節目を記念に



光明寺に対し蓮模様の色鮮やかな打敷 1 領(写真)をご寄贈賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。今後、会員の皆様の益々の御活躍をお願い申し上げます。



艶やかな実行委員の皆さん

永代合葬墓 合掌廟の御案内

昨今、主に後継者不足などの理由によりご先祖のお骨を守ることに不安を持つ方が増え、そのような相談を受ける機会が増えています。その不安を解消し皆様が心安らかにご先祖を偲ぶ環境づくりも、仏教寺院として大きな役割ではないかと思案模索してまいりました。この度、当寺ご門徒の相澤建設(花川南)の社長、相澤邦彦様と、門徒ではありませんが札幌市の北聖社社長の 大竹真史様の多大なる御協力により永代合葬を目的とした『合掌廟』を開設しました。『合掌廟』とは一定期間を個別区画で骨壺の状態でお預かりした後、光明寺納骨堂内の合同墓に合葬(他の方のお骨と合同)し、お寺が続く限り永代にお骨をお預かりする御廟(墓)です。詳しくは別紙のご案内をご覧ください。



ご不明な点がございましたらお気軽に光明寺までご連絡をお願い致します。

日帰り研修旅行

6月24日に総勢22名で厚田～浜益～月形と回ってきました。先ずはこの度住職が交代された厚田本照寺様へ参拝を行い、前御住職にお参りとお寺の縁起などを時間が気になるほど懇切丁寧に聞かせて下さいました。続いては今年4月にオープンし「なんもないヨ」と評判の



道の駅 石狩あいりーど厚田へ、次に昼ご飯を食しに浜益の民宿日本海へ、ビールを片手に甘エビ定食を堪能する人や、甘エビには手を伸ばさず空酒の人も。近所のふじみ屋で看板商品のどら焼きを買い込み一路月形へ。浜益の一番の思い出は寒かった。月形には「月形樺戸博物館」という樺戸集治監(現在の刑務所)の歴史資料が展示してあり、日頃の運動不足で重い足を引きずりつつガイドさんの説明を聞き何とかついて行きました。最後は昨年オープンの道の



駅とうべつへ、ここはとても広々としており、行程最後なので時間を決めずに思い思いに過ごして戴きましたが、名残惜しいのとあとは帰るだけという気楽さからか、話に夢中になる人あり、そんな中「もう帰りたいんだけど」という声もちらほら聞こえ、なかなか立派な値段の蕎麦や牛タンを眺めながら皆無事にお寺へ到着し解散となりました。昨今はバス代や色々と経費が上がり、参加費も少しずつ増額をお願いし心苦しいことではありますが、年に一度ということでご勘弁願います。



有り難うございます



つい先日、お寺の向かいの平野信雄さんから外置きのごみ箱を戴きました。とても手製には見えない仕上がりで思わず「いい仕事してますねえ」と唸るほどです。住職宅で普段使っていた写真右側の錆びだらけがよほど哀れに見えたのでしょう。大いに使わせて戴きます。

光明寺のホームページを開設しました

お寺の活動を知って頂きたく、是非お若い方へもお知らせください!!

石狩 光明寺  パソコンやスマートフォンの【yahoo (ヤフー)】又は【google (グーグル)】の検索サ

イトで上図のように検索すると1ページ目に、

高陵山 光明寺は地域に密着した浄土真宗のお寺です | 法要承り中と出てきますのでご覧下さい。

平成30年度(2018)のご法座、行事予定

平成30(2018)年

10月22日(月) ~23日(火)	親鸞聖人報恩講法要		
	布教使 増毛町西曉寺住職 <small>さいぎょうじ</small> 藤 <small>ふじ</small> 順生師 <small>じゅんしょう</small>		
	22日	午前11時	日中法要・門信徒物故者追悼法要併修
		午後1時30分	大逮夜法要~大勢のご住職方が見えます~
		引き続き	納骨堂総追悼法要
		引き続き	御法話2席
		午後5時20分	御伝鈔拝読~初夜法要
		引き続き	御法話1席
	23日	午前7時	晨朝法要
		引き続き	御法話1席
午前10時		満日中法要	
引き続き		御法話1席	
11月18日(日)	午後1時	秋季永代経法座 布教使 札幌市覚英寺 <small>かくえいじ</small> 黒田顕城師 <small>くろだけんじょう</small>	

平成31(2019)年

1月15日(火)	午後1時	宗祖親鸞聖人御正忌法要
1月16日(水)	午前11時	宗祖親鸞聖人御正忌法要満座
	正午	お齋(光明寺仏教婦人会の御協力)
	午後1時30分	光明寺定期総会
	総会終了後	門信徒新年会(ご門徒は誰でも御参加下さい)
4月7日(日)	午後1時	春季永代経法要 布教使 三笠市善行寺 <small>ぜんぎょうじ</small> 名和康成師 <small>なわこうじょう</small>

門信徒皆様のお寺です。自分一人の為の仏縁に出会いましょう。
皆様のお参りをお待ち申し上げます。

後記 秋も深まり随分日が短くなり朝晩は暖房の世話になる日もやってきました。油は高止まり、来年10月には消費税増税が控え、たばこは一足先にこの10月から値上げです。住職は買い溜めしようか思案中です。気候はあてにならずお釈迦さまが申された「生きるのも苦」の意味をひしひしと噛み締めています。それでもなお楽しい事があるのも又この世です。報恩講はお寺のおまつりです。文責=住職です